

研修Ⅰ A 高松 単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり

「中心となる人物の変化をCMで紹介しようー『走れ』ー」(東京書籍4年)

1 提案の概要

(1) 主張点

① 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想

ア 第二次の学習過程の工夫

イ ワークシートの工夫

② 児童の意識に沿った単元を貫く言語活動の選定

ア CM作り

イ 本の帯作り

(2) 授業実践

① CM作り

ア CM作りに必要な読みの視点

イ CMに入れたい叙述の吟味, 中心となる人物の気持ちの検討

ウ 気持ちの変化を確かにとらえるため, 場面と場面をつなぐ

エ 作品のテーマに迫ることのできる板書やキャッチフレーズ作り

オ 学習したことを生かす「走れ」以外のお話のCM作り

② 本の帯作り

ア 人物の気持ちの変化を意識した一人学び

イ 読みを深める全体交流

ウ 場面をつなぎながら登場人物の気持ちを考える活動

エ 言語活動一本の帯作りー

2 成果

○ 研究仮説「言語活動が思考力・判断力・表現力を育成することに有機的に結び付くための単元構想」が有効であった。

- ・ 目的がはっきりしており, 単元や授業の見通しがもてる。
- ・ 児童主体の, 児童の思いを実現するために必然性がある。
- ・ 教材の特徴や特性が生かされている。
- ・ 学校・児童の実態に即している。

○ 1単位時間の授業における指導過程の工夫をすることは大変重要であることが明確になった。

- ・ 単元を貫く言語活動における児童の具体的な活動の姿やゴールを見据え, それに対応した1単位時間の授業を積み重ねていくことができた。
- ・ 児童に確かな力を付ける指導過程(第二次の学習過程)であった。

3 課題

- ・ 児童にとって不得意と思われる言語活動を選定し単元を貫くことで, 力を付けていくという方法もあるのではないか。
- ・ 単元を通して児童に付けた力を使って, 他教科等の言語活動を充実させ, その教科等で付けた力を定着させていくためには, どのような指導計画や手立てが必要であるのか考えていくとよい。
- ・ 国語科を児童や学校の実態に応じた形に応用・発展させていく必要がある。

単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり
「中心となる人物の変化をCMで紹介しよう — 『走れ』 — (東京書籍)」(4年)

I 高松支部の取り組み

研究主題
真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
～単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり～

現行の学習指導要領
「生きる力」をより一層育む

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得, 活用
- 課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力等を育む
- 主体的に学習に取り組む態度を養う

真に生きて働く国語力

「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」を一層重視して国語科の授業改善を図る。

言語活動の充実

- ・ 発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。
- ・ それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる。

(「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」より)

児童が自ら学び、課題解決のための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付ける。
⇒ 見通しをもち、主体的に思考・判断・表現できるような単元になり得る。

※ 「言語活動」を検討する4要素

- ① 単元で付けたい力を明確にする。
- ② 付けたい力に最適な言語活動を選定する。
- ③ 単元を貫いた言語活動を位置付ける。
- ④ 子どもの主体性を生かした言語活動である。

研究の視点

(1) 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想
…☆単元や授業で子どもに付けたい力 ☆単元を貫く言語活動

(2) 1 単位時間の授業における指導過程の工夫
…☆言語活動に沿った学習問題の設定 ☆問題解決のための操作活動
(ノート指導, ワークシートの開発, 構造的な板書の工夫, 交流の場の設定 等)

II 主張点

1 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想

〈本単元で児童に付けたい力〉

小学校学習指導要領「C読むこと」指導事項ウ

「場面と場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」

- ・ 場面と場面を関係付けて読む。
- ・ 登場人物同士を関係付けて読む。
- ・ 叙述を基に想像し、生活経験と結び付けながら豊かに読む。

言語活動例「紹介したい本を取り上げて説明すること。」を遂行するために必要不可欠な第二次の学習過程とワークシートの工夫を重視した単元構想

2 児童の意識に沿った単元を貫く言語活動の選定

〈児童の実態〉

- ・ 活動性の高い学習を好む。
- ・ 新しい活動への挑戦意欲が高い。
- ・ 叙述を根拠にすることが苦手だが、人物の心情や様子を想像することを好む。
- ・ 書く活動に抵抗を感じる児童が多い。

- ・ 落ち着いて黙々と学習に取り組む。
- ・ 既習事項を参考にすると活動しやすい。
- ・ 叙述をもとに人物の心情や様子を想像することを好む児童が多い。
- ・ 書く活動を好む児童が多い。

〈言語活動〉

CM作り

- 読みの学習でふきだしに表現したこと等を音声で伝える生CMを言語活動に選定。→相手の反応が評価としてすぐ得られる。
- 人物の気持ちの変化に合わせて場面絵を展開させたり吹き出しを付け足したりし、動的な表現を主体とする。
- CMの構成は、指導のねらいをふまえる。
 - 1 中心となる人物の気持ちの変化
 - 2 中心となる人物の気持ちの変容に関わる人物やその出来事
 - 3 物語を表現するキャッチフレーズ
- 読みの学習での表現を「台本パーツ」とし、中心となる人物の気持ちの変化を表すのに効果的なパーツでCMを構成する。

【相手意識・目的意識】中心となる人物の変化や、物語を表すキャッチフレーズについて、自分の読みを3年生や友達に伝える。

【言語活動を遂行するうえでの配慮事項】

- 読みのねらいと言語活動の相互関連の重視

…4つの場面「設定」「展開」「山場」「結末」それぞれにおける読み取りが言語活動につながるようなワークシートを用意。(ワークシートでの表現が言語活動で生きる。)

- 言語活動を評価する共通した視点の設定

…短い言葉で印象的に伝える「キャッチフレーズ」を評価材料の一つとする。

本の帯作り

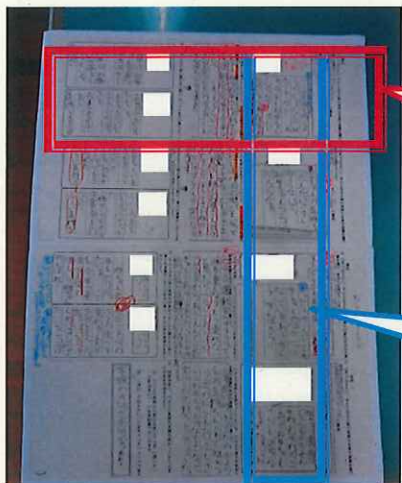
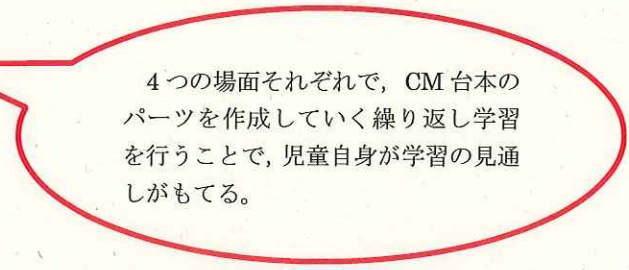
- 読みの学習で付箋紙に表現したこと等を書いて伝える本の帯を言語活動に選定。→複数の相手からの評価が得られる。
- 人物の気持ちの変化や最も自分の心に残った場面を選び、本を読み返しながら言葉を吟味する静的な表現を主体とする。
- 帯の構成は、指導のねらいをふまえる。
 - 1 中心となる人物の気持ちの変化
 - 2 最も自分の心に残った場面を表す絵や表現
 - 3 該当場面のキャッチフレーズ
- 読みの学習での表現を「帯パーツ」とし、人物の気持ちの変化や最も自分の心に残った場面のパーツを帯に表現する。

III 実践例

1 言語活動 — CM作り —

(1) 1単位時間の授業における指導過程の工夫


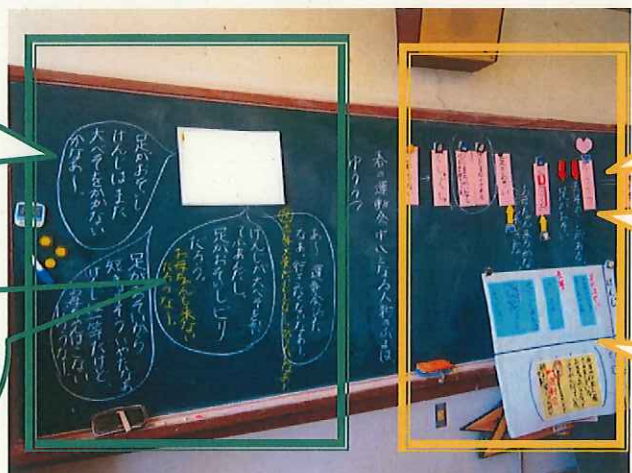
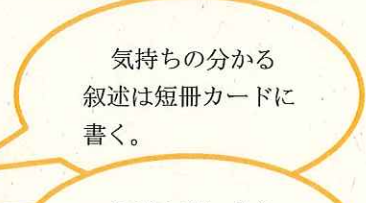
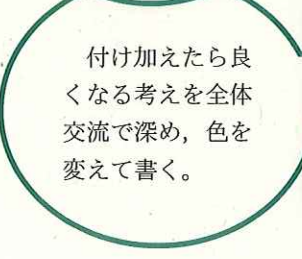
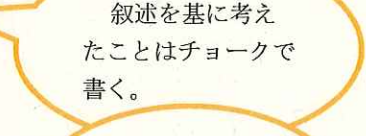
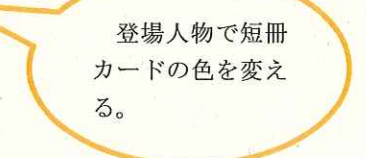
★ 全ての場面のCM台本パートが見られるワークシート

設定		
展開		
山場		
結末		

4つの場面それぞれで、CM台本のパートを作成していく繰り返し学習を行うことで、児童自身が学習の見通しがもてる。

中心となる人物の気持ちを縦に並べることで、場面を振り返りながら学習しやすくなる。

★ 教科書の叙述と想像した気持ちについて、視覚的に意識できる板書

叙述より考えた気持ちを吹き出しに書く。

付け加えたら良くなる考えを全体交流で深め、色を変えて書く。

気持ちの分かる叙述は短冊カードに書く。

叙述を基に考えたことはチョークで書く。

登場人物で短冊カードの色を変える。

★ 場面と場面を関連付けて考えやすくするための側面掲示



学習の足跡を側面に掲示することで、考えの根拠を振り返りやすくする。

(2) 授業実践

単元名 中心となる人物の変化をCMで紹介しよう ～教材文「走れ」(鯨講) 4年3組 男子20名 女子10名 合計30名
--

① 単元の目標

- 物語の中心となる人物の変化を紹介するCMを作るために、中心となる人物に着目し、人物の性格や気持ちの変化を読み取ることができる。
- 物語を読んで考えたことや感じたことを発表し合い、友達との感じ方の違いに気付くことができる。

② 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	言語
・中心となる人物を紹介するために、物語を楽しんで読もうとしている。	・中心となる人物に着目し、人物の性格や気持ちの変化を読み取っている。 ・物語を読んで感じたことを発表し合い、友達との感じ方の違いに気付いている。	・中心となる人物の気持ちや性格を表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、理解している。

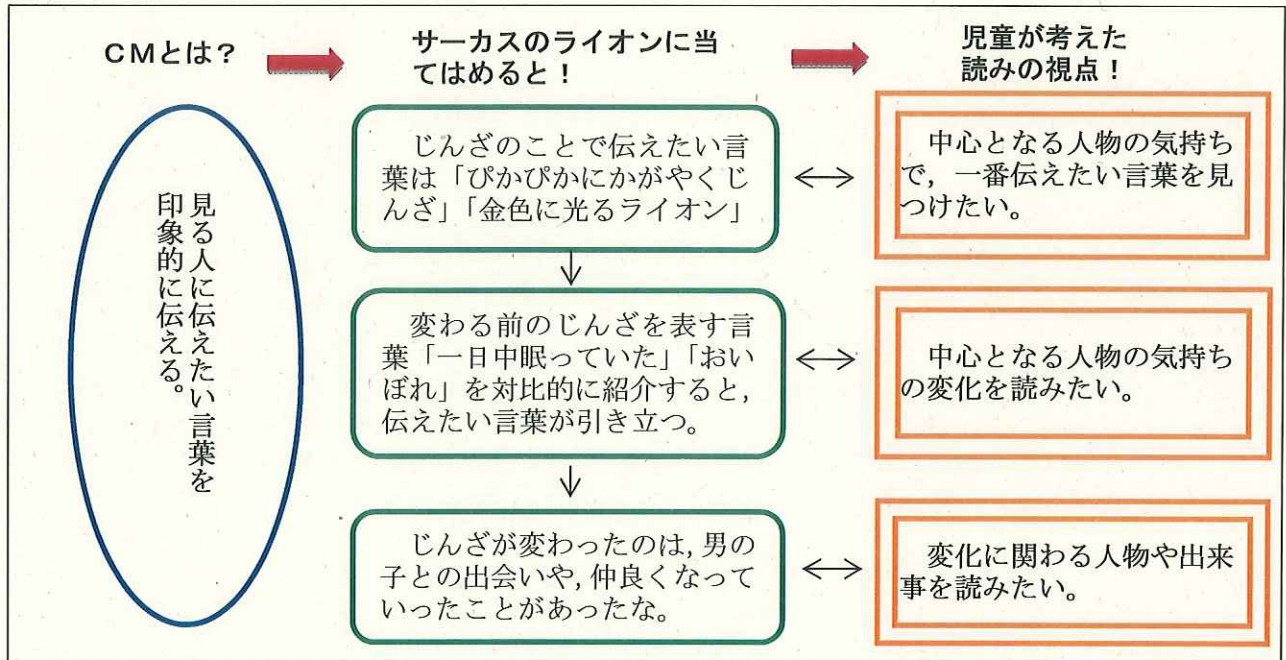
③学習指導計画 (全10時間)

次時	学習活動	評価規準 (評価方法)
第一 次	○ 中心となる人物の変化をCMにして紹介しようという学習課題もち「走れ」の学び方の見通しをもつ。	㊦ CM作りのために、読み取りたいことについて考え、指定された本の中で紹介したい中心人物について考えている。 (観察)
第二 次	○ 「走れ」を読み、場面分けして、あらすじを書くことを通して、物語全体の流れをつかむ。 ○ 「運動会の日の朝」の台本作りをするために、登場人物の設定を読み、のぶよの気持ちを想像する。 ○ 「のぶよの短距離走まで」の台本作りをするために、三人の気持ちを読み、けんじとお母ちゃんの気持ちを想像する。 ○ 「のぶよの短距離走まで」の台本作りをするために、のぶよの気持ちを想像する。 ○ 「のぶよの短距離走」の台本作りをするために、三人の気持ちを読み、のぶよの気持ちの変化につながるけんじとお母ちゃんの気持ちを想像する。 ○ 「のぶよの短距離走」の台本作りをするために、のぶよの気持ちの変化を想像する。 ○ 「短距離走の後」の叙述より、のぶよの気持ちを想像し、登場人物の気持ちの変化を表すCM台本を完成させ、「走れ」のCMを紹介する。	㊦ 「運動会の日の朝」「のぶよの短距離走まで」「のぶよの短距離走の後」の4つの場面に分け、内容の大体をつかんでいる。 (ノート) ㊦ 叙述から、けんじやお母ちゃんとのぶよの関係を読み、のぶよの気持ちを想像している。 (ワークシート) ㊦ けんじとお母ちゃんの叙述から、二人の辛い気持ちを想像している。 (ワークシート) ㊦ CMで伝えたいのぶよの表情を選び、叙述から、けんじとお母ちゃんの板挟みになっているのぶよの心情を想像している。 (ワークシート) ㊦ 叙述から、のぶよの気持ちの変化のきっかけを読み、けんじとお母ちゃんの気持ちを想像している。 (ワークシート) ㊦ 叙述から、のぶよの心情の変化を想像している。 (ワークシート) ㊦ 叙述から「短距離走の後」ののぶよの気持ちを想像し、物語全体を通して、のぶよの気持ちの変化をとらえ、読み取ったことを紹介するCM台本を完成させている。 (ワークシート)
第三 次	○ 同じ本を選んだ友達と読み取ったことを話し合いながら、物語の中心となる人物の変化を表すCMの台本を作る。 ○ 選んだ本の中心となる人物の変化を表すCMを作り、紹介し合う。	㊦ 選んだ本の、中心となる人物の気持ちの変化やその変容に関わる人物や出来事を読み取っている。 (ワークシート) ㊦ 自分が選んだ言葉や想像した登場人物の気持ちの変化と比べながら、友達の作ったCMを評価している。 (ノート)

④ 指導の実際

ア CM作りに必要な読みの視点

児童とCMの特徴を話し合いながら、自分たちの作るCMのイメージ化を行った。児童が3年生の時に読んだ『サーカスのライオン』を例に挙げながら、物語をどのように読んでいくかを以下のように確認した。この活動を行うことで、CM作りに必要な読みの視点について、クラス全員が共有できた。



イ CMに入りたい叙述の吟味、中心となる人物の気持ちの検討

CMの要素である「中心となる人物の気持ちの変化」を読むためには、物語の設定、展開、山場、結末のそれぞれの場面で、中心となる人物・のぶよがどのように描かれ、どのような気持ちであったかを想像する必要がある。そこで、児童がCMで伝えたい、中心となる人物の気持ちを表した言葉と、その場面から想像した中心となる人物の気持ちを、CM台本のパーツとして読み取っていくこととした。

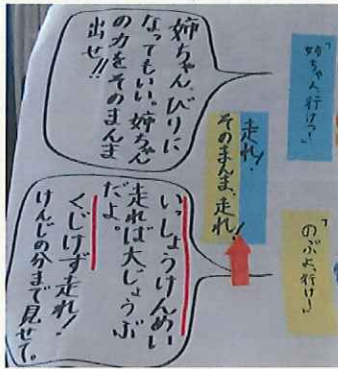
まず、設定の場面では、CM台本のパーツに入れる言葉の吟味を行った。



のぶよの様子や気持ちが分かる叙述はいろいろあるが、「ゆううつ」という言葉を選ぶと、去年の思い出したくない思い出である「心の中がぐしょぐしょだった。」という心情も入るし、「足が遅い」という意味合いも入る。「ん…たぶんね。」(お母ちゃん来ないかもしれないな)と答えた、のぶよの気持ちも感じられる。この場面でCMに入れる言葉は、この言葉しかない!!!

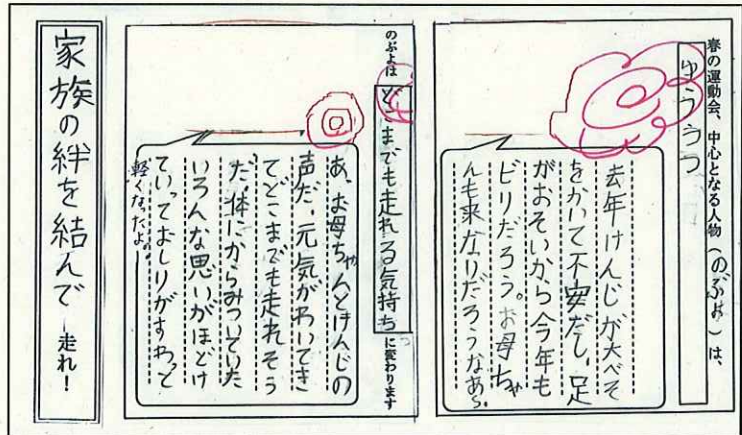
言葉の吟味を行った後、この場面で想像できるのぶよの気持ちを、叙述や自分の経験とつないで想像した。児童が想像した中心となる人物・のぶよの気持ちを全体交流で紹介する中で、考えの根拠となっている叙述とつなぎながら、どのようにのぶよの気持ちをふくらますことができるのかを検討した。

エ 作品のテーマに迫ることのできる板書やキャッチフレーズ作り



「走れ」の学習では、3人の登場人物の気持ちが分かる叙述を押さえていくので、のぶよの表現はピンク、けんじの表現は水色、お母ちゃんの表現は黄色の短冊カードに書き出して読みを深めていった。初めはバラバラであった3人の気持ちが、山場の場面はけんじとお母ちゃんが同じ言葉を言っているということで、水色と黄色とのカードを重ねたいと児童は考えた。また、結末の場面では、「二人は走った。走りながら笑った。笑いながら走り続けた。」という叙述から、のぶよとけんじの叙述を重ねて貼りたいと児童は考えた。このように、気持ちが分かる表現を重ねて貼るといふ板書は、視覚的にも3人の気持ちが重なっているということを感じやすかったようである。

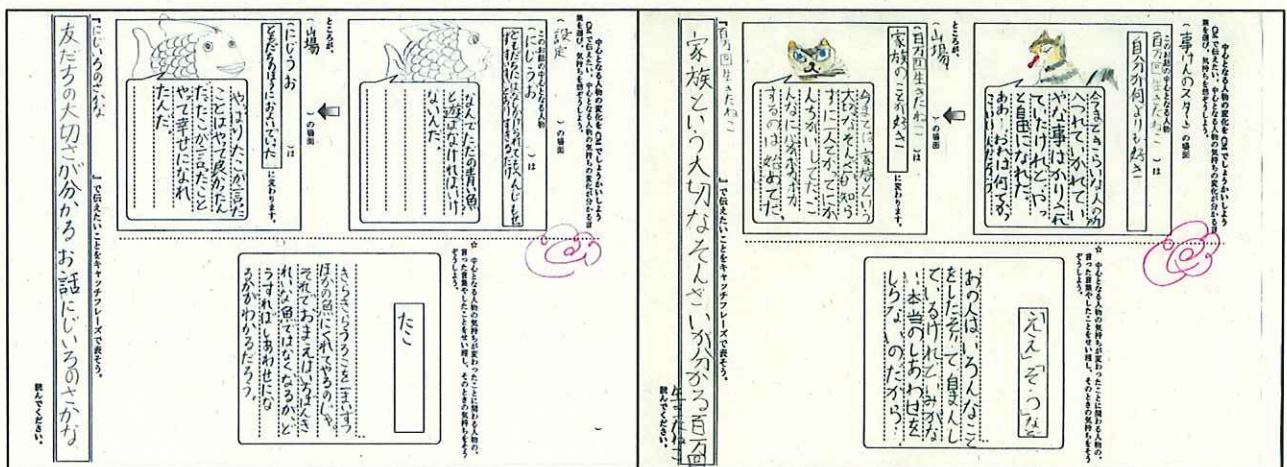
学習の最後には、「走れ」を読んで最も心に響いたことをCMにのせて紹介するためのキャッチフレーズを考えた。3人の気持ちがつながったということが児童の心に響き、キャッチフレーズには「家族の心がつながる」とか「家族の絆を結んで」とか「走れ」というような、作品のテーマに迫る言葉を入れていた。



オ 学習したことを生かす「走れ」以外のお話のCM作り

CMの作り方を学んだので、『100万回生きたねこ』と『にじいろのさかな』でCM作りを行った。この2冊は、中心となる人物が分かりやすく、その人物が他者からのある一言やある出来事がきっかけで、初めと終わりの心情が大きく変わる話である。

そのため、「中心となる人物の最も大きい変化があるのは山場の場面だ」「設定と山場の場面对比すると中心となる人物の変化が良く伝わる」「中心となる人物の気持ちを表す叙述を対比の表現で探したい」「中心となる人物の変化に関わった人物とキャッチフレーズに使いたい言葉を絡めたい」等、『走れ』で学習したスキルを使って児童は主体的にCM作りを行った。



(3) 成果と課題

成果

CM作りは、活動的な本学級の児童にはとても合っており、どの児童も意欲的に取り組めた。はじめは、叙述を選ぶ活動や、その叙述から気持ちをふくらませる学習がうまくできなかった児童も、4場面全てが同じような学習スタイルだったので、見通しが立てやすく、自分のつまずきを解決できる方法が見だしやすかったようである。知的好奇心の高い児童は、第二次の学習と並行して、自主的に『にじいろのさかな』のCMを作成していた。学習の見通しがもてるため、自分なりに学習を進められていた。

物語の中心となる人物の気持ちを場面ごとにしっかり読み取った上で想像すると、初めに読んだときには気付かなかったことがいろいろ見えてくるという感想をもった児童が多数見られた。また、「CMは人物の気持ちをよく考えたり想像したりして作ったので、たいへんだったけれど、人物の気持ちを想像して読まないといけないなと思った。」「中心となる人物の気持ちをよく考えて想像する学習が好きになれてよかった。」という児童もいた。

課題

「本を紹介するためにCMを作ろう」という学習課題であったので、教科書教材にとどまらず、他の本の読み取りまで行った。限られた時間の中で第三次を行ったので、児童の様子を見ていると、もう少し他の本を読み取る時間が必要な児童がいた。第三次をグループ学習で行ったので、読む力の高い児童がグループを引っ張る形になり、一人一人の読みはあったが、CMには個人の読みを生かし切れなかったようである。

2 言語活動一本の帯作り

(1) 授業実践

① 単元の目標

- 描写から、場面と場面を関係付けたり、登場人物同士を関係付けたりしながら、叙述に沿って読むことができる。
- 中心となる人物の変化や最も自分の心に残った場面を本の帯に表現し、紹介することができる。

② 単元構成の工夫

【第一次】

- 中心となる人物の変化を本の帯にして紹介しようという学習課題をもち、「走れ」の学習の見通しをもつ。

【第二次】

- 「走れ」を読み、場面分けをしてあらすじにまとめ、物語全体の流れをつかむ。
- 3つの場面ごとに、登場人物の気持ちが表れている表現を書き出し、登場人物の気持ちを想像したり、登場人物同士を関係付けたりする。

【第三次】

- 人物の気持ちの変化や最も自分の心に残った場面を本の帯に表現し、友達に紹介する。

③ 指導の実際

ア 人物の気持ちの変化を意識した一人学び

(第二次 2・4・6時間目)

児童は、第二次の1時間目に物語を3つの場面に分け、あらすじにまとめる活動を行っている。そこで、2時間目からは場面ごとに一人学びを行い、その後に全体交流で読みを深められるように設定した。

☆ 一人学びについて



児童は登場人物の気持ちが表れている表現を見つけ、付せんに書き出した。この時、主人公の気持ちの変化が意識できるように嬉しい・楽しい等の上がる気持ちを赤い付せんで、悲しい・寂しい等の下がる気持ちを青色の付せんに書き出した。

第一場面ではのぶよは青い付せんばかりだ。のぶよは、本当に運動会が嫌なんだなあ。去年も嫌な思い出しかなかったんだ…。

イ 読みを深める全体交流

(第二次 3・5・7時間目)

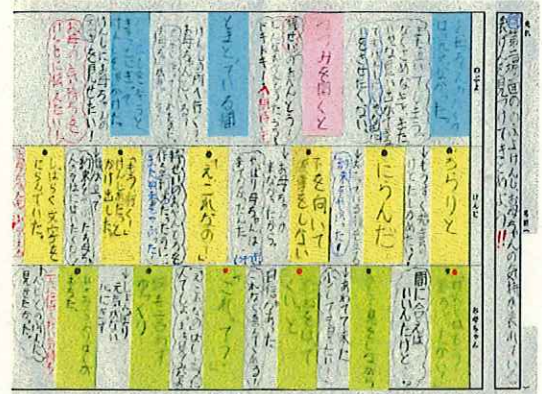
児童は一人学びを行った後、全体交流を行った。まず、一人学びで見つけたのぶよの気持ちが表れている表現を発表し出し合った。次に出された表現からのぶよの気持ちを考えたり、

気持ちの根拠となる表現に繋げたりする活動を行った。のぶよの交流が終わると、けんじ、お母ちゃんの順番でさらに読みを深めていった。
☆ 全体交流を通して

全体交流から児童はただ気持ちを想像するだけではなく、表現を根拠にして想像することができた。
また、3人の表現を一つの表にまとめたことで、人物同士の関係やけんじとお母ちゃんの気持ちのずれ違いにも気付くことができた。

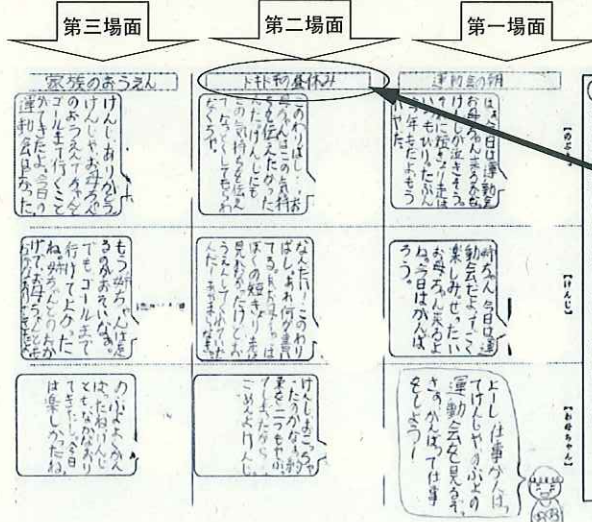


【第二場面の板書】



【第二場面の児童のワークシート】

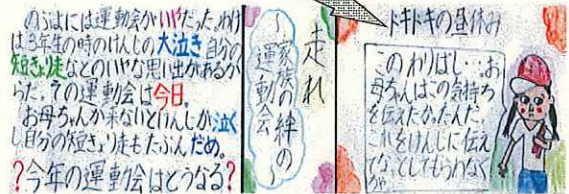
ウ 場面をつなぎながら登場人物の気持ちを考える活動 (第二次 8時間目)
全体交流後には、その場面を表す見出しをつけ、その後、登場人物の気持ちを想像しふきだしにまとめた。この時、ワークシートを場面の流れに沿って順番に書き足していけるようにしたので、それぞれの気持ちの変容に気付くことができた。



全体交流の後に気持ちを考えたり、見出しを付けたりしたことで、児童は登場人物の葛藤や心のつながりにまで考えを深めることができた。

また、見出しは言語活動である「本の帯」のキャッチフレーズとして活用することもできた。

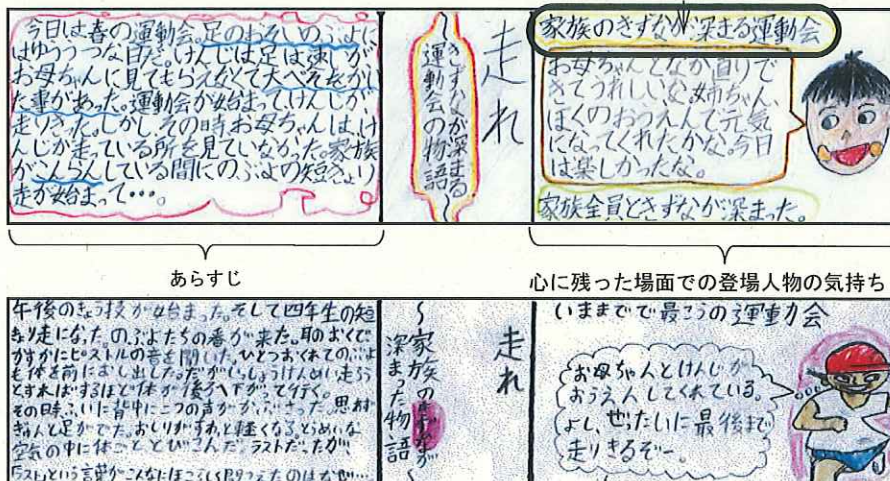
場面を表す見出し



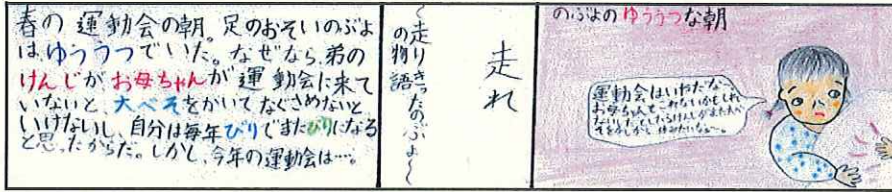
エ 言語活動—本の帯作り— (第三次 1・2時間目)

最後の活動として本の帯作りを行った。まず、ワークシートを場面の流れに沿って順番に書き足していけるようにしたので、それぞれの気持ちの変容に気付くことができた。

物語の見出し



ぼくが心に残ったのは、けんじとお母ちゃんの応援で、のぶよが最後まで走りきった場面だよ。
だから見出しを「なかよく終わる短距離走」にしよう。



心に残った場面として、のぶよの心の変容がわかる第一場面や第三場面を選ぶ児童が多かった。
また、あらすじにも登場人物の変容を生かした内容にまとめあげることのできた児童も多かった。

(2) 成果と課題

① 成果

- 物語は気持ちを想像することばかりに終始していたが、表現にこだわって読もうとする意欲的な児童の姿が見られるようになった。
- 付せんを活用したことで、文章を読むのが苦手な児童にも登場人物の気持ちの変容を読み取る視覚的な支援となり、進んで取り組むことができた。
- 「本の帯」に載せる内容は「あらすじ」「題名～自分の考えた副題～」「心に残った場面」と整理されているので、児童は今までのワークシートを生かしながら、表現することができた。

② 課題

- 一人学びと全体交流の時間の中で評価をすることができなかった。評価の観点を明らかにして指導に生かしたい。
- 「本の帯」には児童自身の表現で紹介文やあらすじを書くことができたが、分かりにくい表現だったり、ねじれの文章も見られたりした。物語を読み、表現を見つけて終わるのではなく、児童が実際に活用していけるよう、語彙の習得も行っていきたい。

IV まとめ —2つの授業実践を通しての成果と課題—

【成果】

1 同学年の児童に同じ教材を使って単元を構想する前提条件

- 学年間の縦の系統や年間の横のつながりを検討し、「児童に付けたい力」の確定
- 「言語活動例」を参考に「児童に付けたい力」を効果的に付ける言語活動の方向性の決定
- 児童の実態を洗い出し、最も児童に寄り添った具体的な言語活動の選定

本支部での研究仮説「言語活動が思考力・判断力・表現力を育成することに有機的に結び付くための単元構想の視点」—有効

- ・ 目的がはっきりしており、単元や授業の見通しがもてる。(学習過程が明確である。)
 - ・ 児童主体の、児童の思いを実現するために必然性がある。
 - ・ 教材の特徴や特性が生かされている。
 - ・ 学校・児童の実態に即している。
- 等

2 1単位時間における授業の指導過程の工夫

→単元を貫く言語活動における児童の具体的な活動の姿やゴールを見据え、それに対応した1単位時間の授業を積み重ねていくことの重要性

- 読みのねらいと言語活動の相互関連を重視し、それぞれの場面における読み取りが言語活動につながるワークシートの用意
- 言語活動を評価する共通した視点を設け、「キャッチフレーズ」を評価材料

→児童に確かな力を付ける指導過程(第二次の学習過程)

【課題】

1 児童の実態と言語活動の選定のとらえ方

→児童にとって不得意と思われる言語活動を選定し単元を貫くことで、力を付ける発想も。

2 国語科で付けた力や経験した言語活動の他教科への転用

国語科＝言葉の力を育成する中心的な教科

・他教科等の言語活動を充実させる言葉の力を支えている教科

→単元を通して児童に付けた力を他教科等の言語活動を充実させ、その教科等で付けたい力を定着させていくためにどのような指導計画や手立てが必要であるかの検討。

→国語科を児童や学校の実態に応じた形に活用・発展